

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 9日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|-----------|
| 事業所番号 | 0175700426 | | |
| 法人名 | 有限会社介護ケア道央 | | |
| 事業所名 | グループホームぬくもり | | |
| 所在地 | 北海道岩見沢市栗沢町最上293番地1 (電話) 0126-34-2322 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年7月16日 | 評価確定日 | 平成20年9月9日 |

【情報提供票より】 (平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 17年 7月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 19 人 | 常勤 | 16人, 非常勤 3人, 常勤換算 13.7人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|---------|
| 建物構造 | 木造 造り | |
| | 2階建ての | 1~2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|-----------------|
| 家賃(平均月額) | 28,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000~19,000 円 |
| 敷 金 | 有 (円) | (無) | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 1,000 円 |

(4) 利用者の概要 (7月16日現在)

| | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 13 名 | |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 10 名 | | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 0 名 | | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | | |
| 年齢 | 平均 | 82 歳 | 最低 | 74 歳 | 最高 | 92 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------------------|
| 協力医療機関名 | 岩見沢市立栗沢病院、町立長沼病院、栗山赤十字病院、三嶋歯科医院 |
|---------|---------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、自然豊かな環境の中で、広い敷地にゆったりと建っており、広い畑には野菜が育ち、玄関周りの花壇も美しく整えている。理事者は、高齢者に対する強い思い入れを持って当事業所を設立しており、理念に基づいた日々の支援により、利用者は、ありのままに穏やかに生活している。

【重点項目への取組状況】

| | | |
|------|---|---|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題は2項目であったが、項目のひとつである事業所の多機能性を活かした支援については、すでに取り組んでおり、解決している。また、災害対策については、災害に備えた備品を整備しており、運営推進会議や行事の際、地域住民に支援の要請を続ける等、改善している。 |
| | ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価表を記入し、それを管理者・ケアマネジャーでまとめる形をとって取り組んでいる。職員は、日々の介護を振り返るとともに、ひとつひとつの項目を深く考える機会となり、また、管理者には、職員の考えを知る機会となっている。 |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、事業運営状況をはじめ、行事予定やその他の報告を行っており、事業への理解を得る段階である。回を重ねることにより、地域からの理解は深まっており、災害時の支援についても繰り返し要請しているところである。 |
| | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情の受付窓口については、利用開始時に重要事項説明書により十分説明しており、更に、日常的に家族の来訪時には声をかけ、意見や要望を聴取する努力をしている。また、意見・要望等があれば、即刻解決している。 |
| 重点項目 | ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、町内会行事(花見、新年会)に参加している。市の行事である農業祭や文化祭にも出かけ、楽しんでいる。利用者への友人の来訪や、友人への電話などについて支援をするなど、地域で暮らすことを大切に考えている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 今年より、従来の理念に、「地域で暮らしていけるような地域作りを目指す」という内容を加え、実践している。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は、事業所内の各所に掲示しており、職員はよく理解し、日々の支援に活かしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会行事や市主催のイベントなどに、積極的に参加するとともに、事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域や外部とのふれあいを大切にしている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 一人ひとりが自己評価表を記入することにより、日々の介護支援を振り返る機会となり、また、管理者には、職員の考えを知る機会となり、反省と共通理解に役立っている。改善すべき点には、速やかに取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 年に3回の運営推進会議を、町内会長・民生委員・利用者・利用者家族・市担当職員をメンバーとして開催している。現在は、事業運営状況をはじめ、行事予定やその他の報告等が主な議題であり、事業への理解を得る段階にある。回を重ねるごとに、地域からの理解は深まっており、災害時の支援についても繰り返し要請している。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の担当者とは、書類の提出や相談等で連携を図るとともに、運営推進会議等で関係作りに取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 2ヶ月に1回事業所便りを発行し、利用者の生活記録や写真と共に送付している。家族の来訪時には、近況を報告するようにしている。事業所での金銭預かりはしておらず、本人所持の小額の現金については、居室に置いた出納帳にレシートを貼り、家族に確認してもらっている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情の受付については、利用開始時に重要事項説明書により十分説明をして理解を得ている。また、日常的に家族の来訪時には希望や意見等を尋ね、あれば速やかに解決している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の離職は極めて少なく、ユニット間の異動も最小限に抑えている。日常の生活の中で、利用者も職員もユニット間を行き来しており、職員の異動は、ほとんど影響が無い。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新規採用の職員には、担当者を決めて1ヶ月以上かけて指導している。その他のスタッフは、ミーティングで学びあったり、希望や勤務スケジュールに合わせて、外部の研修を受けている。事業所外部の研修後は、ミーティングで報告し、全体のレベルアップに努めている。 | ○ | 今後は更に、新規採用の職員からベテランまで、段階に応じた研修計画を作成し、研修の機会を確保するよう期待する。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 隣接の事業所との交流をはじめ、空知ブロック協議会の研修会参加時に、交流をしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用開始前には、管理者やケアマネジャーが利用者の家庭を訪問している。更に、本人と家族が事業所を訪問するなど、顔馴染みになり慣れてもらうよう工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者と職員を家族のような関係と考え、教えてもらったり助けたりという場面作りを行うなど、平等な関係になるように工夫している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の行動や職員との会話、利用者同士の会話等の中から、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 毎日の記録や、職員の意見、家族の思いを受けて介護計画を作成し、家族の理解を受けている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 原則として3ヶ月に1度の見直しをしているとともに、状況に変化が生じた場合は、情報を確認して現状に即した計画を作成している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 緊急時や家族の状況により、受診や通院の支援を行ったり、利用者の要望に沿った外出の支援を行うなど、柔軟に対応している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族の希望する、かかりつけ医に受診するための支援をしている。家族の都合がつかない場合は、事業所で対応しており、また、受診結果を家族に報告している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合の対応については、利用開始時に事業所の方針を家族に伝え、その後も折に触れ話題とし、共通理解としている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 記録等の個人情報は、直接見えない棚に保管している。職員は利用者への対応に、プライバシーや尊厳を損なわないように注意を払っている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日課を設けず、その日やその時の利用者の希望やペースを大切に、希望に沿うように支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの力量や好みに応じて、調理の下ごしらえ・調理・盛り付け・後片付け等を職員と共に行い、同じ食事を同じテーブルで食べている。また、職員は話題を提供し、楽しい雰囲気作りをしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 週2回の入浴日を設定しているが、希望があればいつでも入浴ができる。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの生活歴とできることを把握し、利用者の意向を尊重しながら、食事の準備・菜園の世話・洗濯物たたみなど、それぞれができそうな仕事を頼んでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 毎日の散歩や菜園の世話のほか、できるだけ外気を吸う機会を持てるようにとの考えの下に、サンルームや玄関前までというように工夫しながら、戸外に出ることを支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中、玄関には施錠していない。利用者が出かける様子がある時は、声をかけて気をそらせたり、職員がついていったりして、安全に配慮している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 避難訓練や消火訓練を、消防署の指導・協力を得て、毎年行っている。緊急連絡網を整備し、災害に備えて、水・缶詰等も用意している。災害時の地域住民の協力については、機会をとらえて要請を続けている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分摂取量のチェックを毎日行い、栄養・水分の摂取状況を把握している。栄養バランス・カロリー量については、栄養士に依頼して指導を受けている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間の壁には、季節の行事に合わせた飾り付けや、利用者の作品、事業所の行事の写真を掲示しており、楽しい雰囲気を出している。音、光なども適度に調節し、快適な環境になっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、使い慣れた家具や仏壇・花鉢・写真などを置き、好みを活かしているとともに、清潔を保持しており、居心地良く過ごせるように保っている。 | | |

※ は、重点項目。